



会報 JAMT

JAPANESE ASSOCIATION OF MEDICAL TECHNOLOGISTS

発行所
 財団法人日本臨床衛生検査技師会
 発行責任者 小崎繁昭
 編集責任者 蒲池正次、小郷正剛、下田勝二、
 山城元俊、及川雅寛、谷口薫、
 高田秋也
 〒143-0016 東京都大田区大森北4丁目10番7号
 TEL (03) 3768-4722 FAX (03) 3768-6722
 ホームページ <http://www.jamt.or.jp>



年頭挨拶

新年明けましておめでとうございます。

会員の皆様には、ご家族共々輝かしい新春をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。

さて、役員と共に取組んで参りました会務も、会員の皆様の温かいご支援とご協力をいただき、予定された事業計画を着実に執行できましたことに対し、厚くお礼申し上げます。昨年の当会最重要課題の一つである公益社団法人組織改革については、地区担当理事を中心に定款、諸規定検討委員会を立ち上げ、多くの会員の声に耳を傾けると共に、内閣府、関連する医療関連団体の情報を入手し、将来あるべき日臨技組織の体制の整備と定款の見直しを進めているところであります。すでに昨年末から公

益社団法人の受付が始まっておりますが、関連他団体、医療関連団体の動向を見極めながら準備を進めていく所存であります。

この公益社団法人改革は、会員の皆様が所属している都道府県技師会とも強く連動することから情報交換を密にしなが、これまで同様に継続して国民のための公益活動を主体に、事業の見直しと、公益活動を各都道府県技師会と共に健康祭りやエイズ撲滅運動等を強力に進め、国民から臨床検査と臨床検査技師が見える運動を今年も引き続き進めてまいりたいと考えています。

臨床検査標準化事業も今年で3年を迎え、多くの会員のボランティア活動と医療機関の理解の下で事業が順調に進められているところであります。臨床検査の標準化は毎日毎日のデータの積み重ねであり、今後も日本臨床衛生検査技師会が責任ある組織として全国津々浦々まで検査データが標準化された手法、管理の下で、生涯にわたって利用できる検査データを報告する検査体制を整えていかなければなりません。その一歩が標準化3カ年事業であります。最終年の集大成を以って今後の標準化事業を進める上で問題点を整理し、より質が高く精度の良い検査データを提供するための新たなスタートラインに立つ年になります。全国の会員と組織が目指す高い理想に向かって、更なる飛躍をする年になることを期待しています。

本年は、7月下旬に神奈川県横浜市のパシフィコ横浜を主会場に第3回 AAMLS 学会を開催する年です。第58回日本医学検査学会を社団法人神奈川県臨床衛生検査技師会にお願いし AAMLS 学会と一部ジョイントで開催いたします。アセアン、アジア各国からも期待されている学会であり、多くの会員の皆様に参加していただきたいと願っています。

臨床検査技師の国際的な貢献は緒についたところでありますが、JIMTEF と共同開催した日・タイ国臨床検査技術支援フォーラムや仏語圏アフリカ支援や開発途上国への国際臨床検査技師の支援は300名を超え、世界各国で日本の臨床検査技術がやがて芽を出し、成長していくものと期待しています。

日臨技が行う認定制度については、関係する学会と共に公平、公正で透明性のある第三者機関として認定センター主導で執り行い、技師会員としての資質向上としての生涯教育履修率の向上と、併せて高い医療技術保持のために認定一般検査技師、認定心電検査技師、認定臨床染色体遺伝子検査師を誕生させました。認定取得者は関係者から高い評価を得て、日頃の業務に励んでいる事を聞き及んでいます。誕生間もないため認定技師の数は多くありませんが、将来を託す若い認定検査技師の方々の向学心と、認定試験に寄せる熱い思いが伝わり、明るい日臨技の将来は約束されたものと確信している次第です。

会員の皆様におかれましては、今後も研鑽を怠ることなく、臨床検査を通じて国民に良質な医療を提供していただきたいと思っています。その他、生涯教育研修事業として、各地区学会、各都道府県学会、研修会、講習会等を企画していますが、日頃からの研鑽を怠ることなく、臨床検査を通じて国民に良質な医療を提供するよう努力していただきたいと願っています。

本年も会員の皆様とご家族のご健康と益々のご繁栄を祈念申し上げ、年頭の挨拶とさせていただきます。

平成 21 年 1 月

社団法人 日本臨床衛生検査技師会
 会長 小崎 繁昭